

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年11月26日(金) 2校時
 児 童 4年C組 男18名 女18名 計36名
 授業者 小 野 和 枝

1 単元名 ぐらしの中の世界について話し合おう
 (ぐらしの中の和と洋)

2 単元について

(1) 教材について

本教材は話し合いの話題提示という位置づけで、「住」を例に和洋両文化のよさが、ぐらしの中にかに取り入られているかが比較して述べられ、ぐらしの中の世界の文化について話し合うための共通理解事項として取り上げられている。「ウミガメのはまを守る」に、段落相互の関係を考えて説明文を読んだことをうけて、本単元では内容を大きくまとめたり、必要なことは細かい点に注意したりしながら読んでいく。そして、読んだことを参考に、自分達の身の回りにある世界の文化について調べ、考えたことをグループ毎に話し合う展開になる。

(2) 児童について

子ども達は、昨年度からの朝読書に取り組んでいることもあり、本を読む機会が増え、様々な文章にも触れることが多くなってきている。しかし一方で読解力に大きな差がでてきている。一読して大体の筋をとらえられる児童もいるが、拾い読みをするのが精一杯の児童もあり、挿絵や写真だけに頼りすぎないように理解できていないことも少なくない。漢字や言葉の学習への取り組みの意欲も読解力にも大きな差が見られる一因と考えられる。また、接続詞等を手がかりに段落相互の関係についてとらえるということも苦手としている児童が多い。

(3) 指導について

本単元では、読み取りに重点を置き、段落ごとに大事な言葉を手がかりに和室と洋室の違いやそこから生まれるよさについて細かく読み取らせ、要点をまとめる活動を大事にしていきたい。そのため、1単位時間の中に音読や視写を取り入れていく。また、単元の初めに学習した新出漢字や言葉の意味調べを読み取りにつなげていくためにも、授業初めの5分程度で言語事項等の確認(スキルタイム)を意図的に取り入れて読み取りに生かして生かせるようにしていくことにする。また、接続詞を手がかりにした段落相互の関係から文章構成をとらせたい。

3 指導目標及び評価の観点

	関心・意欲・態度	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと
単元の目標	ぐらしの中の世界の文化に興味を持って学習に取り組む。	互いの考えを比べながら話し合いをする。	必要な事柄を選択して書く。	説明されている内容を大きなまとまりでとらえたり、大事な語句に注意したりしながら文章を正しく読む。
評価の観点	興味を持って教材文を読み進めたり、興味や関心のある話題について調べて意欲的に話し合いに参加したりしたか。	自分の考えとの相違点や共通点に注意しながら聞くことができたか。	観点を明らかにして書くことができたか。	和室と洋室のよさをどんな観点で整理しながら述べているかに注意して読むことができたか。

- 4 指導計画（15時間扱い）
- ・単元冒頭と教材文を通読し、感想を持つ。 2時間
 - ・学習計画を立てる。 1時間
 - ・新出漢字や語句についての学習をする。 1時間
 - ・くらしの中の和と洋の文章構成を確かめる。 1時間
 - ・くらしの中の和と洋を読み、「和室」と「洋室」のそれぞれの特色やよさを読み取る。 6時間（本時4 / 6）
 - ・くらしの中の世界の文化について、考えたり調べたりする。 2時間
 - ・学習のまとめをする。 2時間

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・洋室と和室それぞれの使い方のよさについて読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点と評価（ ）
めあてとらえ 10分	<p>言葉の学習（スキルタイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習基本語彙の確認 <p>1 前時の学習を想起し、本時の学習場面を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習場面を各自音読する。 （ ～ 段落） <p>2 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方ではどんなよさがあるのだろうか。</p> </div> <p>3 本時の学習範囲を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で出てくる語句について意味を確認する。 ・前時は、洋室と和室の「すごし方」のよさについて学習したことを確認する。 ・本時は、洋室と和室の「使い方」のよさについて学習することを確認する。 ・課題を全員で音読する。 ・本時の学習課題を考えながら読むことを確認する。（指名読）
ひとり学び・学び合い 30分	<p>4 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。和室と洋室の使い方の違いは何によって決まるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋室と和室それぞれに置かれる家具についてノートに書き出す。 <p>置かれる家具によって、洋室と和室の使い方にそれぞれどんなよさがあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 <p>5 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて要点をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの使い方のよさが、家具の置き方に表れていることを確認する。 「和室と洋室のもっとも大きな違いは、床の仕上げ方とそこに置かれる家具だといってよいでしょう。」（すごし方=床の仕上げ方・使い方=置かれる家具） ・洋室には家具が使い方によって置かれる物があるが、和室は家具をほとんど置かないということに着目させる。（ざぶとんやふとんは家具ではない点に気づかせる。） ・書き出した家具を比較しながらそれぞれの使い方のよさについて考えさせ、文章の中からよさについて書かれているところを見つける。 ・なかなか見つけられない児童には、ワークシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をまとめることができたか。 ・教師が書いた要点を視写し、自分が書いた要点と比べさせる。

	<p>要点</p> <p>洋室は何をするかがはっきりしていて、そのために使いやすく作られており、和室は一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの読みをする。(一斉読)
ふりかえり5分	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をし、本時の学習を振り返る。 ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、学習への取り組みや内容についての自分のがんばりを確認させ、次時の学習意欲へつなげさせる。 ・次の時間はまとめの段落の読み取りと文章の構成についての学習をすることを知らせる。

(3) 評価

評価規準 (方法)	具体の評価規準		
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：支援を要する児童への手立て
洋室と和室それぞれの使い方のよさについて読み取ることができる。	洋室と和室それぞれの使い方のよさについて、大事な言葉を落とさずに簡潔に要点をまとめている。	洋室と和室それぞれの使い方のよさについて大事な言葉を落とさずに要点をまとめている。	ワークシートを使わせ、大事な言葉を入れて要点をまとめることができるように支援する。

6 板書計画

くらしの中の和と洋

和室と洋室のもつとも大きな違い

床の仕上げ方 過ごし方の違い
置かれる家具ー使い方の違い

課題

洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方でどんなよさがあるのだろうか。

洋室

置かれる家具

- ・ テーブル
- ・ イス
- ・ 勉強つくえ
- ・ ベッド

写真

よみ

何をするかがはっきりしていて、
そのために使いやすく作られている。

和室

置かれる家具

ほとんどない

- ・ ざたぐ
- ・ (ふとん)
- ・ (ふとん)

写真

よみ

一つの部屋をいろいろな目的に使う
ことができる。

大事なことば

- ・ 和室は〜。洋室は〜。(主語)
- ・ 何を
- ・ 何を
- ・ いろいろな目的

要点

洋室は何をするがはっきりして使いやすく作られており、和室は一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる。